



平成 24 年 3 月 19 日

各 位

会社名	名古屋鉄道株式会社
代表者名	取締役社長 山本 亜土
コード番号	9048
上場取引所	東証・名証各第一部
問合せ先	秘書広報部長 鈴木 豊信
T E L	052-588-0813

「名鉄グループ中期経営計画 ～PLAN120～」の策定について

当社は、この度、2012 年度から 2014 年度までの 3 ヶ年計画である「名鉄グループ中期経営計画 ～PLAN120～」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

当社グループでは、2009 年度から今年度までの「名鉄グループ中期経営計画」において、「厳しい経営環境の中、『危機感』を持ってグループの経営改革に取組み、重点事業を強化し、『展望』を拓く」を基本方針に、「交通ネットワークの充実」、「生活サービス・都市開発事業の強化」、「グループ経営改革の推進」の重点テーマを掲げ、ICカード乗車券「manaca」の導入や輸送実態に合わせたダイヤ改正の実施など関連する諸施策を推進してまいりました。

計画全体としては、このほか有利子負債の削減による財務体質の改善を進めるなど一定の成果を上げることができたと認識しておりますが、東日本大震災や記録的な円高による中部経済の落ち込みなど厳しい経営環境もあり、今年度末における利益目標の達成については、残念ながら困難な状況であります。

今後の中長期的な先行きとしては、近年の激変する経営環境に加え、人口減少などにより国内需要の縮小が見込まれる一方で、2027 年のリニア開業（予定）に合わせて名古屋駅地区の街づくりが動き出すなど、当社グループとしても大いに期待できる材料もあります。

当社グループでは、これを最大のチャンスと捉え、その需要を確実に取り込むとともに地域に新たな価値を創出すべく、名鉄名古屋駅地区再開発に向けた準備を長期に亘って着実に進めてまいりたいと考えております。

従いまして、今回は当社グループとしての長期的な方向性と戦略を定め、それを踏まえた最初の 3 ヶ年計画である「名鉄グループ中期経営計画 ～PLAN120～」を策定いたしました。

新中期経営計画の最終年度である 2014 年度に当社は創業 120 周年を迎えます。今後も永く社会に貢献し、地域に愛される企業として存続していくため、これまで以上にグループ一丸となってこの新中期経営計画に取り組んでまいります。

名鉄グループ中期経営計画 ～PLAN120～

■ 新中期経営計画の位置付け

名鉄グループ「2020年のあるべき姿」

- ◇中部圏を中心に地域に密着し、豊かな生活を実現するための事業を展開
- ◇時代の変化を的確に捉え、迅速に対応できる体制を構築
- ◇名駅再開発など次なるステージに向けて強固な経営基盤を確立
 - ・交通事業・・・安定的な利益を確保
 - ・不動産事業・・・もう一つの収益源として強化
 - ・新たな柱となる事業を創出

名鉄グループ長期経営戦略

- ◇事業の選択と投資の集中
 - ・事業の選択（採算が見込まれる事業の更なる強化、不採算事業からの撤退）
 - ・投資の集中（安全に関わる施策、名駅再開発に関連する事業、新たな収益の柱となる事業）
- ◇全社競争力の強化
 - ・グループ一体感の醸成とグループ連携の強化
 - ・競争優位に立てる専門的スキルの向上
 - ・長期的な目標に向けた財務体質の強化

名鉄グループ中期経営計画 ～PLAN120～

■ 基本方針

激変する経営環境に対応すべく「変革」に挑み、
新たな成長のステージに向けて発進する

■ 期間

2012年度～2014年度（3カ年）

■ 重点テーマ

- 1 名駅再開発に向けた成長戦略の構築
- 2 グループの核である交通事業の強化
- 3 沿線を中心とした地域活性化の推進
- 4 グループ経営の強化

■ 重点テーマにおける諸施策

1 名駅再開発に向けた成長戦略の構築

当社グループの最高の資産である名駅地区において、その開発計画を長期的な観点から進めていくとともに、関連する事業の強化を図ってまいります。

（1）名駅再開発基本計画の策定

- ・名駅再開発の基本方針を基にした隣接地権者・行政などとの協議
- ・鉄道駅、バスセンターの整備方針の策定

（2）名古屋市内重要拠点駅の整備（金山・神宮前）

- ・金山駅商業施設のリニューアル
- ・神宮前東口再開発の計画、推進

（3）不動産賃貸・管理事業の強化

2 グループの核である交通事業の強化

事業運営の根幹となる「安全の徹底」・「お客さまサービスの向上」に努めるとともに、災害など異常時の対応を強化してまいります。

(1) 安全を最優先とした事業活動の推進と安全・防災体制の強化

- ・ 神宮前「鉄道センタービル」を核とした鉄道運行管理体制の強化
- ・ 事業継続計画（BCP）に基づいた危機管理体制の強化
- ・ 鉄道高架化（太田川、知立、青山、布袋、喜多山など）と耐震化（堀田など）の推進

(2) IC カード乗車券「manaca」の相互利用サービスの開始・拡大

- ・ JR 東海「TOICA」との相互利用の開始（2012 年 4 月）
- ・ 全国交通系 10 カードの相互利用の実現（2013 年春）

(3) 情報提供の強化などお客さまサービスの向上

- ・ シームレスな交通ネットワークの整備・推進
- ・ 鉄道、バスにおける運行情報サービスの向上
- ・ web 環境でのコンテンツの充実と双方向サービスの提供

3 沿線を中心とした地域活性化の推進

沿線を中心とした生活サービスの充実や交流人口の創出など地域に活力をもたらす取組みを、地域と連携して推進してまいります。

(1) 沿線価値・サービスの向上

- ・ 地域カードを目指した「manaca」の新サービス展開
- ・ 沿線都市観光キャンペーンの強化
- ・ 駅の生活利用価値の向上（駅ナカ、駅チカ事業の強化）
- ・ 環境が良好な住みやすい街づくりの推進（名鉄陽なたの丘、新舞子など）
- ・ シニア層・キッズ層に向けた施設の誘致やサービスの展開
- ・ 環境活動の推進（地域との協働による取組みなど）

(2) 地域資源やグループネットワークを活用したインバウンドビジネスの推進

- ・ インバウンド向け商品の企画・販売促進
- ・ 地域連携の強化
- ・ 「昇龍道」を機軸とした新たな観光ルートの構築とセールスの推進

4 グループ経営の強化

グループの連携強化などにより全体の底上げを図るとともに、将来に向けてグループ事業ポートフォリオの見直しを進めてまいります。

(1) 更なる事業の選択と集中

(2) 全社見地に立ったグループ資産の有効活用

- ・グループ資産の一元管理
- ・低利用資産（遊休・低採算資産）の活用や事業用土地の再編

(3) グループ連携強化による収益拡大と効率化

- ・事業別、業種別戦略の強化など

(4) 今後成長が見込まれる領域や関連分野での新規事業の創出

(5) 各事業における重点課題の遂行

- ・名鉄タクシーホールディングスを中心としたタクシー事業全体の見直し
- ・観光バス事業の方向性確立
- ・名鉄運輸を中心とした運輸事業全体の再編
- ・採算が見込まれる分野での中部地域外への進出
(名鉄レストラン、名鉄協商〈駐車場〉、名鉄インなど)
- ・名鉄百貨店の収益性・効率性の向上

■ 数値目標（連結）

● 経営数値目標

	2014 年度目標	2011 年度見込み
ROE	6.5%	4.5%
ROA	3.0%	2.4%
有利子負債/EBITDA 倍率	8.0 倍	9.3 倍

● 配当数値目標

	2014 年度目標	2011 年度見込み
DOE	2.0%	0.9%

本資料の情報のうち、過去の事実以外のものは将来の見通しであり、リスクや不確実性を含んだものです。実際には、様々な要因により異なる結果となる場合があります。